

鹿島台商業高校のキャリア教育について

本校は、平成19年度より3年間を見通した系統的なキャリア教育に取り組んでおります。

これまで、平成19年度からのキャリア教育の取組をもとに、平成24年度から平成27年度までは文部科学省委託事業「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」の指定校をはじめ、現在も宮城県の指定校として、地元企業、産業界、県立大学教授、ハローワーク、経済産業省等の行政機関と連携しながら、キャリア教育により現代社会を生き抜く資質・能力を養い、地域社会の発展を担う人材の育成を行っております。主な取り組みについては、以下の通りです。

1 全学年による「総合的な学習の時間・総合的な探求の時間（キャリアの時間）」の実施

学校独自教材による学習プログラムを作り、雇用問題等の現状を踏まえながら、働くことの意義、社会人としての在り方生き方等を現実的に考える機会としております。

2 事前指導及び事後指導を重視した就業体験（インターンシップ）の実施

2学年全員が地元企業を中心に3日間の就業体験を行っております。事前指導といたしまして、秘書サービス接遇関係を専門とする外部講師による実技講習会を実施するほか、就業体験で学んだことをまとめ発表するなど、事後指導を充実することにより、勤労観・職業観の育成に力を入れております。

3 キャリア・カウンセリングの充実

全学年対象の二・三者面談やハローワークによるジョブサポーター面談、連携コーディネーター・心のケア支援員面談など生徒一人一人に対して、きめ細やかな対応をしております。

4 卒業後の状況調査をもとにしたキャリア教育の検証と改善の実施

全教職員及びキャリアアドバイザー等による企業訪問や電話等による聞き取り調査を実施し、卒業後9年以内の卒業生を対象に卒業後の状況についての実態をきめ細かく把握することにより、日頃からキャリア教育の検証及び進路指導の改善を行っております。

5 起業家教育等の商業科専門教育の推進

地域の復興を担う専門人材として、専門性を高めるための起業家教育を行っております。外部の専門家の指導助言を受けながら、地域の活性化に向けて与えられたミッションを解決するため、情報の収集や分析、ディスカッションなどをとって起業家的資質や能力を育てております。



あゆみ

なお、職業教育は、特に断りのない限り「商業教育（職業教育）」として表記していくこととする。

① 平成19年度～平成21年度「個性かがやく高校づくり」指定校及び就業体験実施の歴史

平成19年度に県の「個性かがやく高校づくり」の指定を受け、「起業家マインドの育成」を柱に、キャリア教育の中の一部である「起業家教育（アントレプレナーシップ教育）」にかなり特化した実践を行ってきた。

また、本校の「就業体験（インターンシップ）」は、平成16年度から始まり、平成25年度までは商業科が主管であったが、平成26年度からは、本校は商業教育（職業教育）としてではなく、キャリア教育の視点から、進路指導部が主管となって現在に至っている。



② 平成22年度～平成23年度「魅力ある県立高校づくり支援事業」指定校

平成22年度からは、県の「個性かがやく高校づくり」指定を受け、それまでの取り組みを発展させた。週1時間の学校設定科目であるキャリアの時間「OT（OurTime）」の導入や1学年企業見学等を新たに加えることにより、進路指導についての内容にも踏み込んだ。そのようなことから、指定校の事務局は新たに進路指導部に任されたが、平成21年度までの起業家教育に特化した内容から発展したこともあり、起業家教育とキャリア教育（特に進路指導）が混在しており、内容をもう一度整理する必要性が生じていた。また、当時の就職率の低迷や卒業後の離職率の高さも本校の大きな課題であった。さらには、文部科学省「キャリア教育の手引き」（平成23年11月発行）にも、進路指導がキャリア教育の中核をなすと示されている。さらには、平成23年の中央教育審議会答申においても、高等学校の進路指導を事例としながら、進路指導のねらいは、キャリア教育の目指すところとほぼ同じとの見解が示された。



そのようなことから、平成23年度当時の本校では、キャリア教育の中核である進路指導を中心とした根本的な見直しと立て直しが迫られていた。

③ 平成24年度～平成27年度 文部科学省委託事業「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」指定校

平成24年度からは国の震災復興を担う人材育成のための「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」（文部科学省委託事業）の指定校となった。初年度である平成24年度では、過去5年間の県指定校としての内容をバランスよく取り入れ、さらには教員研修（県外への視察）を充実させた。ただし、商業教育（職業教育）中心の内容となっており、キャリア教育（進路指導）の内容は薄い面があった。

そのようなことから、平成25年度以降の3年間については、キャリア教育を前面に出した内容とした。特に、キャリア教育の中核である進路指導を中心にかかなり力を入れることとし、教育内容の徹底的な見直しと根本的な立て直しを図った。

このことから、進路指導に関する研修の機会ができるよう予算確保した。また、近年の社会構造の変化により、特に高等学校卒業後の雇用環境の多様化がすすんでいる中で、キャリア教育やそれに関連した定義や在り方について、事務局担当者で資料の確認を行い、起業家教育はキャリア教育の一部であるということをきちんと明確化した。



④平成28年度～令和元年度「『志教育』関係指定事業 魅力ある県立高校づくり支援事業」指定校

平成24年度から4年間、国の震災復興を担う人材育成のための文部科学省委託事業「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」の指定校としての内容を継承した。平成25年度以降の3年間、特にキャリア教育の中核である進路指導を中心にかなり力を入れてきたのではあるが、引き継ぐ教育内容となっている。

しかし、起業家教育・商品開発・販売活動等、教科指導である商業科のキャリア教育（商業教育（職業教育）の内容）では予算が必要であるケースが多く、本校は専門高校でもあることから、商業教育（職業教育）充実のために支障のないよう優先的に予算確保した。また、予算編成上の条件として、教員研修の予算執行ができないことから、文部科学省委託事業「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」の予算で実施してきた教員研修はなくなることとなった。

今後の課題としては、中央教育審議会が出された新学習指導要領において、学校全体でキャリア教育の視点で、教科指導をはじめ様々な教育活動に取り組むことが出されている。キャリア教育と進路指導は目指すところはほぼ一緒であるので、そのような点を踏まえた「カリキュラムマネジメント」の推進を行う必要性が出てきている。

本校のキャリア教育（進路指導）は、外部の多くの方々からの御指導・御支援等をいただいていることもあり、かなり充実してきていることは、様々な外部の方々からも評価していただいている。



校訓

「努力以て道を拓き 誠実以て衆に奉ず」

本校の教育目標

人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民を育成する。
 (1) 幅広い知識と教養を身に付け(知育)、豊かな情操と道徳心を培い(徳育)、健やかな身体を養う(体育)。
 (2) 個人の価値を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主自律の精神と勤労を重んずる態度を養う。
 (3) 商業に関する基礎的、専門的な知識と技能を身に付け、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。

生徒の実態、教師の願い

多くの生徒が宮城県内での就職及び進学を希望している。自分の意志と責任において進路を主体的に選択し、地域に貢献する社会的・職業的自立のできるように成長してほしい。

保護者や地域の願い

健やかな心身と社会規範等を含めた基本的な生活習慣を身につけ、地域社会を理解し、貢献できる人材に成長してほしい。

「志教育」の目標

地域に貢献する社会的・職業的自立を目指す人材育成のための教育活動の推進と早期離職者対策の強化

重点指導事項

人と「かかわる」	よりよい生き方を「もとめる」	社会での役割を「はたす」
①社会人として望ましいコミュニケーション能力の育成。 ②生徒指導及び教育相談の充実による社会人として必要な基本的な生活習慣獲得の指導徹底。 ③外部講師および地域等の学校外の様々な人とかかわることを通しての学び。	①生徒の特性を生かした、自分自身の生き方や在り方の探求。 ②社会の変化に対応できる勤労観と職業観の醸成。 ③努力と能力の証としてだけでなく、将来の人生につながる資格の取得。	①変化の激しい社会情勢をつかみ、キャリア教育講話等の学習で自己理解を深め、自己の強みや他者理解の促進。 ②地域や外部資源との連携による体験学習を通して、地域に対する理解を深め、社会的役割の自覚と深化。

各教育活動における取組の観点

各教科	①全ての教科で学ぶ楽しさや意義をもち、必要性を実感できる授業改善により、学習意欲の向上を図る。 ②商業科目等の職業実践取得の意義や目的を理解させながら指導を実施する。 ③朝学習、習熟度別、TT、ICT活用等の実施で基礎学力の向上を図る。
道徳	「地域の様々な人と接する機会が豊富にある」という専門高校の利点を生かし、実習等の経験を通して、基本的な倫理観や勤労観を身に付け、地域に貢献できる態度を養う。
社会的な視点	①社会的・職業的自立を目指し、計画的に実施する。 ②企業見学、進路ガイダンスやキャリア教育講話、キャリアセミナー等で学習した内容を就業体験を通して現場実践の場を想定し、身に付けさせる。
特別活動	①ホームルーム活動の実施により、クラス内での人間関係形成を図る。 ②部活動及び生徒会や委員会活動を活性化させ、学校行事等を充実を図る。
その他	①地域や校外での活動を重視し、時間の許す限り積極的に参加させる。 ②キャリア教育推進協議会をはじめとした様々な地域人材や関係者、PTA等と人的及び物的資源の力を積極的に支援をいただきながら教育活動を行う。 ③社会人として必要とされるビジネスマナー教育を通して、社会人として生きていくための準備をさせる。

家庭との連携

PTA活動や三者面談(本人・保護者・教員)、保護者進路相談手続説明会、学校評価、教科指導やキャリア教育講話の公開等、紙媒体やホームページを通して、積極的に届けたいことを意識し、適切に情報提供して連携を図る。

国語	国語を的確に表現し、正確に理解する能力を育成するとともに、思考力、想像力を伸ばし心情を豊かにし、言語に関する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
歴史・公民	自国と諸外国の文化風土を理解し尊重する姿勢を重視し、現代社会の問題について自ら考える力を養う。
数学	基礎的な知識を習得し、数学の良さを認識するとともに、事象を数学的に考察し表現する能力を養う。
理科	自然の事物や現象に関する基本的な知識を理解し、実験や観察等を通して、それらを科学的に探求することができる力を育成する。
保健体育	主体的な態度を身に付けさせ、ルールやマナーを尊重する態度を養う。また、生涯にわたって、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
外国語	4技能をバランス良く習得させるだけでなく、英語を通してグローバルな視点を養い、自ら行動・発信できる人材を育成する。
家庭	家庭科の体験的な学習を通して、家庭や社会の中で自己の役割を見いだし、主体的に実践する能力を育成する。
商業	ビジネス社会に適應できる人材育成を目指し、ビジネスの諸活動を主体的・合理的に行う実践力と創造性豊かな人材を育成する。

各学年の取組内容

1年	①キャリア教育講話、進路ガイダンス、卒業生懇談会 ②キャリアセミナー(少人数教室方式) ③企業見学 ④鹿島台周辺歴史探訪等フィールドワーク ⑤地域の企画運営参加(鹿島台デリシャスママトまつり、鹿島台わらしフェス、キッズフェスティバル、等) ⑥販売実習(イオン古川店販売会、商業高校Festa等)
2年	①キャリア教育講話、進路ガイダンス、卒業生懇談会 ②キャリアセミナー(少人数教室方式) ③就業体験(インターンシップ) ④秘書サービス接遇の専門家によるビジネスマナー講習会 ⑤地域の企画運営参加(鹿島台デリシャスママトまつり、鹿島台わらしフェス、等) ⑥販売実習(鹿島台互市、県立商業教育フェア等)
3年	①キャリア教育講話(労働法教育・資金管理・ビジネスマナー・人間関係等)、進路ガイダンス ②キャリアセミナー(少人数教室方式) ③近畿府立商業高等学校および上級学校見学 ④就職面接練習、履歴書指導等 ⑤地域の企画運営参加(鹿島台デリシャスママトまつり、鹿島台わらしフェス、等) ⑥販売実習(鹿島台互市、県立商業教育フェア等) ⑦商業科目「地域ビジネスプランニング」の職業家教育における学習成果発表会およびアドバイザーミーティング

地域・企業との協働

①卒業生全員及び関係者として「就職状況調査」を継続し空振り連携を行い、きちんとした進路指導を行う。
 ②教員及び連携コーディネーター等による企業との連携を継続し、最新情報等の収集、早期離職対策や離職後の支援を行う。
 ③キャリア教育推進協議会所属の方々、および大崎市、宮城大学、東北学院大学、キャリアプランニング(株)、一般社団法人インアウトパウンド連合、(株)デリシャスファーム、(株)ダイアファーム、鹿島台小学校、鹿島台中学校、宮城県立支援学校岩沼高等学校、宮城県観光連盟、みやぎ観光振興支援センター、みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター、宮城県教育委員会とのコンソーシアムの各団体をはじめとした様々な地域人材や関係者、PTA等と協働し、教育活動を推進する。